

ジョン・メイスフィールド

## 9 海洋熱

再びあの大海原へ行かなきゃならん あの寂しい海と空の世界へ  
俺が望むのは 背の高い船一艘と導しるべとなる北極星  
舵から伝わるあの手応えと風の歌 白帆のはためき  
水面に立つ薄暗い水煙と 白みゆく夜明けだけさ

再びあの大海原へ行かなきゃならん 打ち寄せる潮の音ねが呼ぶ 5  
そいつが耳にこびりついてとても抗えそうにはねえ  
俺が望むのは 白い雲が流れ 風が吹き荒すさぶ一日  
舞い上がる水飛沫しぶきと吹き散る波の花 響き渡るカモメの鳴き声だけさ

再びあの大海原へ行かなきゃならん あの流浪のジブシーの生活へ  
カモメや鯨がいるところへ 風はナイフのように突き刺さるがな 10  
俺が望むのは 笑いあえる道連れすきの面白れえと太話に  
長い任務トリックが終わった後の静かな眠りと穏やか夢だけさ

(三木菜緒美訳)